

特集



湯ったり銭湯、 まち歩き

〈東京篇〉



昭和の面影を残す建物が点在する谷中・日暮里界隈。ふたりが目指すのは、地元で人気のフレンチ「ヤナカスギウラ」(21頁)

旅人 玉川太福
Tamagawa Daifuku

旅人 南沢奈央 (14〜21頁)
Minamisawa Nao

文 瀬戸内みなみ
Setouchi Minami
写真 佐々木実佳
Sasaki Mika

暖簾^{のれん}をくぐって下足をしまい、男女別の出入り口の引き戸を開けたら、ちよいと高い位置にある番台へひい、ふう、みい、と湯銭を払う……。

そんな、まちの銭湯が、数年前から変わってきているようです。

何だかオシャレだったり、

サウナに、露天に、炭酸泉と、

お風呂の種類も豊富だったり。

梅^{つばき}の蕾は膨らみはじめたけれど、

まだまだ寒さ厳しいこの季節。

広々とした湯船で

身も心もあったまろうと

銭湯好きの浪曲師・玉川太福^{だいがく}さんが、

東京の銭湯をめぐるします。

まずは、演芸をこよなく愛する

女優の南沢奈央さんをお誘いして、

谷中・日暮里をぶらり、銭湯さんぽ——。



お風呂の前に カラダにいいもの♪ HAKKODO

[上] 太福さんがMCを務める動画配信番組で共演したことがあるふたり。久しぶりの再会で、演芸話に花が咲く！ [下] 三重県津市の山二造酢のりんご酢を使ったビネガーソーダ。柚子ジンジャー(手前)とハニージンジャー



ここは東京・日暮里駅にほど近い、谷中銀座商店街。170メートルほどの短い通りに、惣菜、鮮魚、もんじゃ焼きに喫茶店……こぢんまりとした店がぎっしり並び、まるで昭和にタイムスリップしたかのよう。その中ほどにある「HAKKODO」は名前の通り、おいしい発酵食品に出合える店だ。職人が丁寧につくった味噌、醤油、塩麹などを日本中から取り寄せ、店内で焼き上げた焼きむすびやおみそ汁などを販売している。何かと健康が気になるこのご時世、発酵食品は免疫力を上げる!? との評判も高まるなか、フルーツビネガーのドリンクを飲み飲み話すのは――。

「銭湯の風情って、ホッとしますよね。下駄箱の大きな木製の鍵とか、ビン牛乳の入っている冷蔵庫とか」

と、玉川太福さん。

「谷中・日暮里」
飲んで笑って
ひとつ風呂！
斉藤湯

ふたりが向かったのは、太福さんの地元・日暮里にある名銭湯「日暮里斉藤湯」。と、その前に！ 人気の谷中銀座商店街周辺を散策します

銭湯
さんぽ
[1]

おさんぽするのは…



みなみさわ なお／女優。1990年、埼玉県出身。2006年に女優活動をスタート。08年の主演ドラマ・映画『赤い糸』(CX)で注目を集める。その後もNHK大河ドラマ『軍師官兵衛』を始め、ドラマ、映画、舞台、CM、ラジオMC、執筆、書評などで活躍。趣味は読書と落語鑑賞で、11年には古典落語「鑑鈿」で高座にも上がる。現在は女優業の傍ら、NHK『とっておき！木曜笑タイム』案内役、TFM『nippn | hon-yomokka!』パーソナリティー、読売新聞読書委員、Book Bang『南沢奈央の読書日記』、新潮社『波』『今日も寄席に行きたくなって』連載などでも活動中。

たまがわ だいふく／浪曲師。1979年、新潟県出身。2007年に玉川福太郎に入門し、13年に名披露目〈なびろめ〉。15年「第1回渋谷らくご創作大賞」、17年「第72回文化庁芸術祭」大衆芸能部門新人賞、20年「第37回浅草芸能大賞」新人賞を受賞。JFN「ON THE PLANET」火曜パーソナリティーを担当。サウナ・スパ健康アドバイザー。にいがた観光大使。



唸るっ！高座の太福さん
写真=bozzo

「そうそう！ それに天井が高いのも。なんだか懐かしい感じがして、癒されます」

南沢奈央さんにもつこり。

空の明るい穏やかな日、商店街をぶらぶら抜けて、これから銭湯に行くところ。ふたりの銭湯好きは筋金入りなのだ。

全国行く先々でも銭湯を探して、お風呂を楽しんでいるという南沢さん。

新潟から上京して風呂なしアパートに居し、銭湯に通い始めたその初日から病みつきになったという太福さん。あまりに好き過ぎて、下町の銭湯を題材にした「銭湯激戦区」という浪曲まで創作してしまった（それがまた好評）。

「私、温泉地ではなぜか緊張してしまうのですけど……。銭湯だと地元のひとが多いから、日常の続きみたいでリラックスするんです。『シャンプー使う？』と声をかけてもらったり、コミュニティが生きているなあって思います」（南沢さん）

「私も、常連のおじさんたちにいろいろマナーを教えてもらいました。『風呂から出るときは、脱衣所に戻る前に身体を拭くんだよ！』とかね」（太福さん）

東京都内には現在、500軒弱の銭湯があるそうだ。全盛期の1968年（昭和43年）には約2700軒あったというからずいぶん減ってはいるものの、まだまだ根強い人気がある。利用客も近隣の住民だけでなく、若い銭湯マニア、トレーニング帰り

に汗を流したい市民ランナー、日本文化に興味津々の外国人観光客、など幅広い。

しかも最近では昔ながらの建物を改築して、モダンな姿に生まれ変わった銭湯も増えているというのだ。番台はカウンターになり、休憩室が広々とし、お風呂の種類も露天にジェットに天然温泉……。いまや銭湯は公衆衛生上必要なもの、というだけではなく、なんだか個性的で面白そうなものにアップデートされつつある。なのに料金

はたったの480円！*

毎日の暮らしのなかの、ちょっとしたお楽しみ。商店街での寄り道は、そんな気分を盛り上げるのにうってつけだ。

——ドンドン、ドンと来い、ドンドン、ドンと来い……。

おや、あれは寄席太鼓。客寄せをする一番太鼓の響きである。なんと商店街のつつきに常設の演芸小屋「につぼり館」があるのだ。小屋主は落語家の林家たけ平師匠と三遊亭萬橋師匠で、ここでも月に8〜9回の定期公演「ひぐらし亭」を開催している。

太福さんは浪曲師として、につぼり館にゲスト出演の経験あり。南沢さんはというと、好きが高じて自身でも高座こうざに上がったことがあるという、これまた筋金入りの落語ファンだ。当然、ちよいとのぞいていきましよう、ということに。

両師匠による息のびったり合ったオーブニング・トークは抱



地元密着の演芸場！

につぼり館

落語協会のたけ平師匠（右）と五代目円楽一門会の萬橋師匠、所属団体は異なるけれど気の合うふたりが共同で運営する演芸小屋。落語前の「おしゃべり」の時間では、寄席太鼓を披露してくれることも。迫力ある話芸を間近で見られる貴重な場所

* 2021年12月時点の東京都公衆浴場入浴料金（統制額）

【戸越銀座】

心ぽかぽか 戸越銀座の お湯とまち

銭湯
さんぽ
[2]

まだまだ銭湯で湯浴みがしたいと言
う太福さんと後日訪ねたのは2つの
まち。まずは、天然温泉が楽しめる
「戸越銀座温泉」で湯ったり巡

太福さん、お次は戸越銀座にやって来た。
この商店街は全長1・3キロと、関東で
も指折りの長さで有名だ。その横丁をちょ
っと入ったところにあるビル型銭湯は、そ
の名も戸越銀座温泉。東京に湧く真正正銘
の温泉が楽しめる。それは、黒湯。
「うわあ、これは黒い！ すてきだなあ、
このぬるつとした感触がたまりません。身
体のあつたまりかたが違います」

銭湯ではしゃいではないけど知りつつ
も、楽しさが込み上げてくる太福さん。店
主の中寺秀雄なかでらさんによると、ここの黒湯は
品川区内の銭湯における唯一の療養泉りやうせんとの
こと。先代が創業した1960年（昭和35
年）にはすでに掘り当てていたそうだが、
「当時は手ぬぐいが黒く染まると不評でね、

戸越銀座温泉（25頁も）1 空に溶け込むようなブルーのガラススタイルが爽やかな印
象の外観。リニューアル前は「中の湯」という屋号だった 2 2代目店主の中寺秀雄
さん 3 東京の湾岸エリアである大田区や品川区に多く湧出する黒湯 4 月の湯へ



出していなかったんだ。そのあとになって
温泉ブームがきた。それで2007年（平
成19年）に建て替えたときに、黒湯をメイ
ンにしたんだよ」

創業時から時代の先を走っていたのだ。
その進取の精神は、新しいビルになっても
生きている。最大の特徴は、2階の同一フ
ロアにつくられた2つの浴室——月の湯と
陽の湯が、まったく違うコンセプトで内装
されていること。男女日替わりなので、日
を改めればどちらも楽しむことができる。

月の湯のイメージは、伝統的な銭湯。シ
ックな黒タイルが落ち着いた雰囲気をつく
り出す。浴室に一步入ると奥にはほんとと大
きな浴槽が、黒湯を湛えて待っている。脇
の階段を上ると露天風呂だ。肌に優しい軟
水の薬湯に浸かり、木枠に頭をもたせかけ
て目を瞑れば、至福の時間に手が届く。

陽の湯は一転して、開放的でモダンなイ
メージだ。タイルは明るく、カランの上の
鏡は丸くてかわいい。露天風呂もタイル敷
きで、ここが黒湯になっている。大きなテ
レビを眺めながら浮世のことをあれこれ考
えるのもいいだろう。

広いロビーで、太福さんは炭酸飲料を片
手にふうつと一息。

「いやー、リフレッシュしました。浪曲は
体力勝負なので仕事の合間に銭湯に行くこ
ともあります。疲れがとれるし、頭も冴え
るんですよ」



東京の温泉は黒い!

5



7

6月の湯の露天風呂。反対に陽の湯の露天風呂には黒湯が注がれる7ロビーでくつろぐ太福さん。壁には横尾忠則さんが描いた東京都浴場組合のポスターが

*撮影のため特別に許可を得てタオルを着用しています



6

黒湯でお肌つるつる! 戸越銀座温泉

5月の湯(手前)と陽の湯、2つの浴室にまたがって描かれたペンキ絵は、銭湯専門のペンキ絵師・中島盛夫さんによる古典的な富士山と、ペインティングユニットGravityfreeが描く斬新な七福神&富士山。「浪曲を唸るときは、前に演台を置いて専用の布をかけるのですが、私のは中島さんが描いた赤富士を染めた柄なんです(下写真)」と太福さん



写真=木寺一路

【本所・吾妻橋】

人に優しい

極楽風呂♪

御谷湯

続いてやって来たのは本所吾妻橋。当地にある「御谷湯」は東京ならではのビル型銭湯。多彩なお風呂に太福さんもご満悦です

銭湯さんぽ
[3]



1 3代目の片岡信さんは「片想い」というバンドのボーカルでフジロックにも出演
2 5階建ての店舗



1

隅田川といえは江戸の昔から、庶民にと

つての楽しみがたくさんあるところだった。

川堤沿いの桜の花見や、川開きの花火、

屋形船。両国の相撲、浅草の劇場街。大勢

のひとが集まり活気に満ち、一年を通して

賑わいが絶えない場所。いまでも隅田川と

聞くとなんとなくワクワクするのは、その

せいだろうか。

10年前、この地域に新しいランドマーク

が出現した。いうまでもない、東京スカイ

ツリー®である。高さは東京タワーの倍近

くという大迫力でそびえ立ち、日暮れどき

から深夜まで、毎日異なる色彩のライトを

まとうて美しく輝く。

「これは絶景だあああ」

黒湯に浸かりながら、太福さんが唸る。

御谷湯の半露天風呂は、窓越しにスカイツ

リーが見えるように設計されているのだ。

2015年（平成27年）にリニューアル

した、ビル型の銭湯である。浴室は4階と

5階、高いおかげで自然光がふんだんに入

る。特に5階は天井が高く、開放的なこと

この上ない。男女は週ごとの入れ替わりだ。

御谷湯にも湧いている黒湯。この温泉脈

は神奈川県から東京湾岸に沿って分布して

いるそうだが、墨田区ではここだけだ。す

つきりと設えられた坪庭が、温泉にふさわ

しい趣を添えている。

一つひとつの湯船は小ぶりだが、お湯の

種類がたくさんあって実に楽しい。薬湯、

スカイツリーを望む 御谷湯

清潔感あふれる脱衣所。
太福さん、マイ館内着で
クールダウン中！



打たせ湯、マッサージバス。黒湯は高温・中温・低温と3種類の温度で用意されていて――

「おおつ、この動線がすばらしい！」

太福さん、隣り合っている高温と低温の

浴槽を行ったり来たり（5階における配置）。

「温冷交代浴が簡単にできますね。自律神

経のバランスを整えて、血行もよくしてく

れる、注目の健康法ですよ」

心躍らせる太福さん。

「幕の内弁当みたいに楽しんでもらいたい

んですよ」

そう話す片岡信さんは、ここの3代目だ。

5階の壁面にはペンキ絵師・丸山清人さ

んによる富士山が描かれているが、これは

葛飾北斎の「富嶽三十六景」のうちの「甲

州犬目峠」がモチーフになっている。北斎

が墨田区のこのあたりで生まれ、また生涯

のほとんどを過ごしたとされていることに

ちなんだものだ。御谷湯リニューアルの翌

年には、近くに墨田区立すみだ北斎美術館

もオープンしている。

4階のモザイクタイル画は、尾形光琳

旅行鞆に、本を詰めて

ホニタビ!

文＝川内有緒

Kawachi Ario

写真＝佐藤佳穂

Sato Kaoru

作家の川内有緒さんが、本に動かされて旅へ出る――。
登場人物を思ふのか、著者について考えるのか、
それとも誰かに会ったり、何か食べたり、遊んだり？
さて、今月はどこに行こう。本を旅する、本で旅する。

今月の本

向田和子 編

『向田邦子ベスト・エッセイ』

(ちくま文庫)



1981年(昭和56年)8月、航空機事故により51歳で急逝した脚本家、エッセイスト、小説家の向田邦子。本書は向田が晩年、雑誌の企画で38年ぶりに訪ねた故郷の様子を綴った「鹿児島感傷旅行」、鹿児島時代の思い出を振り返る代表作「父の詫び状」等々から、向田邦子の末妹・向田和子さんが「家族」「旅」「食」「仕事」などのテーマ別に50篇を精選したエッセイ集。

向田邦子が故郷もどきと呼んだ街(鹿児島県鹿児島市)

目の下に広がる鹿児島の街は、見たことのない新しい街であった。

「鹿児島感傷旅行」

その人が鹿児島市に移り住んだのは、1939年(昭和14年)のことだった。高い建物もない時代で、城山の中腹に建つ家からは桜島も見えた。その人とは「赤いランドセルを背負った、蚊トンボのようなすねをした」小学生の向田邦子である。2年という短い生活だったが、向田はのちに鹿児島を「故郷もどき」と呼び、多くのエッセイに鹿

児島のことを書き残している。

今回私は、旧向田邸があった城山周辺、家族で通ったという海水浴場や天文館などをめぐった。向田家がいたのは80年以上も前だから、正直、当時の

面影を探すのは難しいのではないかと……と思っていたのだが、その時代から変わらないものをいくつも見つけることができた。

その一つが、向田が海水浴にいくたびに家族で食べていた通称「じゃんぼ」、両棒餅である。いまでも磯浜地域では当時と同じ味の「じゃんぼ」が食べられる。甘い砂糖醤油のタレが絡んだ餅は、ふわりと柔らかく、とてもおいしかった。

向田がよく家族で出かけたのは、天文館と山形屋である。山形屋の現在の



向田家がよく訪ねた桐原家両棒餅店の名物「じゃんぼ餅」
☎ 099-247-1207

おいしいもんには
わけ
理由がある

第 38 回

文・土井善晴
Doi Yoshinaru
写真・岡本寿
Okamoto Hisashi

関東ローム層の土壌が育てた名産品

コクきわだつ、国産落花生

《千葉県八街市》

【右頁】落花生出荷量が全国で第1位の千葉県。中でも八街産は、収穫量の首位をキープしている。こちらは「豆処 生形」(八街市)で天日干しされていた落花生 【左】収穫後の落花生を野積みした「ぼっち」を気に入った土井さん、「一緒に撮ってくださいよ」とカメラマンにオーダー

どい よしはる／1957年、大阪府生まれ。料理研究家、十文字学園女子大学特別教授。テレビ朝日系「おかずのクッキング」、NHK「きょうの料理」に出演。『一汁一菜でよいという提案』(新潮社)など著書多数



まだ幼い頃(昭和30年代)のことです。「食べ過ぎたら鼻血が出るよ」「芽は毒だから食べたらあかんよ」と、近所のお母さんが莢を割って出してくれた落花生の実を、薄皮を剥いて2つに割り、芽を取りながら食べたのを覚えています。

手作りのほかには、今のようにな箱に入ったお菓子はなくて、おやつといえば、氷砂糖、干しバナナ、おかき、それに父がたまに買ってきてくれる天津甘栗。うれしかったのは、桃やパイナップル、みかんの缶詰で、そんな中にピーナツもありました。ピーナツに親しみを感じたのは、双子のデューオ「ザ・ピーナツ」が人気を博していたからかなあ。ピーナツとは落花生の実。落下傘(パラシュート)のように、枝にぶら下がってなる木の実だと思っていたのは私だけです。

落花生にも色々あります

近年は、生落花生を塩水でボイルした「茹で落花生」も出回っています。白っぽく、しっとり柔らかく、甘くておいしいものです。これが出回るのは初秋の一時。私

はそれが落花生の旬だと思っていたのですが、編集部から取材を打診されたのは、11月初旬。今ごろ落花生の名産地・千葉県八街市を訪ねて、いったい何があるのだろうと、少々疑いを持ちつつ、落花生の加工・販売をされている「豆処 生形」を訪ねました。

ずらりと落花生の製品が並ぶ店舗。ご主人の生形健一さんと奥様の淑子さんにご挨拶して、思いつく限りの質問をしたのです。そこですぐにわかったのは、落花生の芽や薄皮はポリフェノールがいっぱいで、食べた方がよいし、おいしいこと。また、「茹で落花生」として出荷するのは水分の多い柔らかな「オオマサリ」という新品種だけであること。オオマサリは早生種なので、確かに取材時には旬は終わっていたのですが、11月に入ると、今度は煎りピーナツに適した品種の収穫が始まるのだそうです。古くから作られている「中手豊」や「千葉半立」、最近誕生した「Qナツ」など、品種もさまざま。皆さま存じでしたか、落花生にも色々あるのです。知らなかったなあ(汗)。